



希望を胸に 学生生活スタート

2010年度入学式

3975人新たな一歩

2010年度の大学院、大学、短期大学の入学式が4月2日、中宮キャンパスの谷本記念講堂で3回に分けて行われ、編入学を含む総勢3975人が大学生活のスタートを切った。写真。

新生の内訳は大学院博士課程前期29人、同後期3人、外国語学部1652人（英米語学科1379人、スペイン語学科273人）、国際言語学部791人、短期大学部英米語学科1052人。編入学は外国語学部英米語学科345人、スペイン語学科4人、国際言語学部99人の448人。

式は午前9時半から国際言語学部、正午から大学院と外国語学部、午後2時半から短大部の順で行われた。開式の言葉の後、吹奏楽部の演奏で、混声合唱団「ラベリテ」が学歌を斉唱。続いて

新生らが「学則を守り、秩序を重んじ、人格の向上と学業の研鑽につとめます」との誓詞を読み上げた。

谷本義高大学長は「目的意識を持ち、自律して主体的に学び続けてください」と告辞。谷本榮子短大部長も「本学は昨年の秋に、『学の研鑽』『国際人としての自覚』『人間の涵養』——などの関西外大行動憲章を制定しました。心に刻んでください」と励ました。

続いてこの日、名誉博士号を授与された王路江・北京語言大学理事長が「これからは視野を世界に向けて知識を広げ、真理を追究してください」とのお祝いのメッセージを述べ、最後に大阪府知事や上海外国語大学長らから届いた祝電が披露された。

(2、3面に関連記事とグラフ)

Campus Calendar 2010-11

2010年度 キャンパスカレンダー

May	5月22日(土)	留学生別科修了式
June	6月 6日(日)	文化博覧祭(中宮)
	6月12日(土)	秋派遣留学生合格証書授与式
July	7月22日(木)	春学期授業終了
	7月27日(火)~8月4日(水)	春学期末試験
September	9月 2日(木)	留学生別科 入学式
	9月 6日(月)	留学生別科 秋学期授業開始
	9月18日(土)	大学院9月入学式
	9月18日(土)	学位記授与式(9月期卒業式)
October	9月25日(土)	秋学期授業開始
	10月 9日(土)	保護者「就職懇談会」
November	10月17日(土)	特別入試
	11月 5日(金)・6日(土)	穂谷祭
	11月 4日(木)~6日(土)	外大祭
	11月 6日(土)	ホームカミングデー
December	11月11日(木)	創立記念日(通常授業あり)
	11月20日(土)・21日(日)	公募制推薦入試
	12月18日(土)	第1回航空ガイダンス
January	12月25日(土)	授業終了
	1月 6日(木)	授業開始
	1月15日(土)・16日(日)	大学入試センター試験
February	1月24日(月)	秋学期授業終了
	1月28日(木)~2月5日(土)	秋学期末試験
March	2月 7日(月)~9日(水)	一般入試 前期日程
	2月23日(水)	第2回航空ガイダンス
	3月 3日(木)	一般入試 後期日程
	3月19日(土)	学位記授与式

北京語言大学

王路江 理事長に 名誉博士号



王路江理事長が授与された。子理事長から名誉博士号が授与された。式には入学生、保護者、来賓、教員ら約1500人が出席、大きな拍手で祝福した。(4面に関連記事)

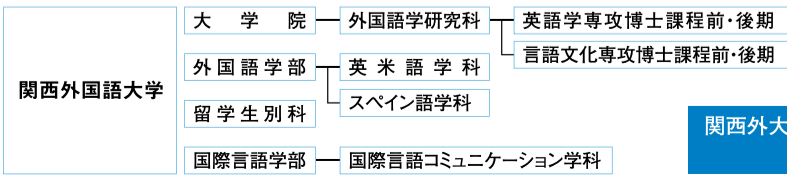
王理事長は、清華大学電子工学部レクター学科を卒業。長年、中国教育部(文部科学省)高等教育管理局に勤務し、同局副局長などを歴任後、1999年、北京語言大学理事長に就任した。

1990年代に教育部訪日団を率いて来日して以来、日本との交流に取り組んだ。本学からの留学生受け入れを積極的に推進し、北京語言大学への短期・長期の留学生は1000人にも達している。昨年の関西外大孔子学院設立に当たっては、申請段階から助言と指導を行い、早期認可の後ろ盾となった。学院開校後は学院副理事長に就任、大所高所から活動を支えている。

王路江・北京語言大学理事長への名誉学位記授与式が、4月2日、中宮キャンパスの谷本記念講堂で行われた。国際言語学部入学式に引き続いて挙行され、谷本榮

中宮キャンパス(大学院・大学・短期大学部)
〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町16-1
TEL. 072(805)2801

穂谷キャンパス(大学)
〒573-0195 大阪府枚方市穂谷1丁目10-1
TEL. 072(858)0021



関西外国語大学短期大学部 英米語学科

関西外大の最新ニュースはホームページにも掲載しています
<http://www.kansai-gaidai.ac.jp/>

思い出の1ページ胸に刻む

3975人が新たな一歩を踏み出した、2010年度の入学式。式を終えた新入生らは、早速、キャンパスへ飛び出し、正門で携帯電話の写真に納まったり、満開のサクラの下で、家族に晴れ姿を撮ってもらったり、思い出の1ページを胸に刻んだ。



混声合唱団「ラベリテ」のメンバーらと学歌斉唱



谷本記念講堂が満席のため、一部の外国語学部新入生はマルチメディアホールで入学式に臨んだ

初
心
忘
れ
ず
に



雨も上がり、入学式終了後はカサを片手に指定された教室に向かう新入生



会場内には多くの来賓の姿も見られた



吹奏楽の軽やかなメロディーが新入生と父母らをお出迎え

学長告辞

2010年度入学式

自律して主体的に学ぶことが使命

みなさん、入学おめでとう。みなさんが大学生活を始めるにあたって、ぜひともお話ししておきたいことがあります。それは「常に目的意識を持ち、自律して主体的に学び続ける」ということです。自らを律し、日々の生活を送る中で自分なりの規律を定め、それに従って自分自身をコントロールしてください。大学は、自分の人生を設計するためのスタート台です。この4年間が一生を左右する、重要な分岐点なのです。自らの人生を切り拓くために自律して主体的に「学ぶ」こと、これがみなさんの四年間の使命です。



大学院・大学
谷本 義高 学長

あなたの目標は何ですか。本学で学ぶ目的は何ですか。留学することがゴールになっていませんか。留学して何を学ぶのですか。今日の宿題

を学ぶことによって可能になるはずがありません。語学力のみならず、日本の、そして世界の、歴史や文化、社会、経済、政治などについて、豊かで幅広い知識と教養を身につけなければならぬことを決して忘れないでください。アリストテレスは「堅琴を学ぶ者は、堅琴を弾くことによって、堅琴を弾くことを学ぶ」という名言を残しています。技術やスキルの修得には、練習と実践の積み重ねが一番の近道だという意味です。語学力の上達を目標にするみなさん、外国人教員から学び、留学生と交流する実践の舞台がこのキャンパスにはあります。好条件を存分に生かし、ぐんぐん力をつけてください。決して初心を忘れないでください。「常に目的意識を持ち、自律して主体的に学び続ける」。これが今日、私がみなさんに伝えたかったメッセージです。

教育とは「共に育つ」共育だと捉えます

ご入学、おめでとう。みなさんのキャンパスライフが今日から始まります。揺るぎない自信と誇りを持って、大いに学び、熱く語らい、青春を謳歌してください。私は、教育とは「共に育つ」こと、つまり「教え」という字を、「共に」に変えた「共育」であると捉えております。ことしも教壇に立ち、みなさんと一緒に学んで、ともに成長することを楽しみにしております。また、短大部には希望者全員を対象とする独自の留学プログラムがあり、この2年間で420人余を派遣しています。みなさんもぜひ、チャレンジしてください。「宗教の奇蹟」として知られるエ



短期大学部
谷本 栄子 学長

ピソードを一つ、紹介します。イスラム教の開祖、ムハンマドは あるとき、「山を動かしてみせる」と宣言し、「おーい、山よ、こっちへ来い」と呼びかけます。もちろん、山は動きません。そこで、ムハンマドは「諸君、ご覧のよう

て歩いて行こう」と言い、すたすたと歩き始めたというのです。凄いです。人生の夢や目標、あるいは大学での勉強のありようも、ムハンマドの山と同じです。夢も希望も、決して近づいてきてはくれません。それに向かって努力し、頑張らないといけないのです。大学での勉強も同じです。受け身ではなく、積極的に学び、自らのものにしていく。そういう姿勢こそが豊かで、大きな実りをもたらしてくれるのです。私どもは昨年秋、「関西外大行動憲章」を策定いたしました。「学の研鑽」「国際人としての自覚」「人間力の涵養」など、本学の学生として疎かにしてはならない行動指針を定めたものです。心に刻み、夢や目標に向かって、一步一步、着実に歩んでください。全教職員が全力でサポートします。

Snapshot Gallery

キャンパスの風景 入学式

April 2, 2010



サクラをバックに記念撮影する新入生と家族



「おめでとう」ハイ、パチリ



短期大学部の入学生を代表して誓詞を読む藪田夏実さん

夢 目標 に向かって



穂谷

穂谷講堂では、ユーモラスな着ぐるみも登場するなどアイデアいっぱいの勧誘も



クラブやサークルのポスターがずらりと並ぶ穂谷講堂



「サクラの下では、1人入部！」



中宮

パイレーツの演技に見入る新入生



「ラベリテ」部メンバー



新入生を勧誘する「ラベリテ」のメンバー



留学生も参加した演武祭

新歓祭

あの手この手の勧誘作戦

新入生歓迎祭が4月6日に穂谷、8日に中宮キャンパスで開かれた。体育会、文化会に所属するクラブ、サークル、同好会のメンバーが、部員獲得を目指して、あの手この手の勧誘作戦を繰り広げた。中宮キャンパスでは、学生広場で開会式のあと、恒例のパイレーツの演技や演武祭などに続いて、屋内外の各ブースでそれぞれの魅力をPRし、新入生を勧誘した。



「リズムに乗って」吹奏楽部のパフォーマンス



武田千恵子さん 久禮義一さん 土岐 孝さん 大島 新さん
短大部助教授、99年
師、92年助教授、95年
科特任講師、92年講
田氏は87年留学生別
係論などを担当。武
教授、政治学・国際関
授、08年短大部特任
片鉾助教授、92年教
任助教授、86年短大
久禮氏は72年短大穂
谷特任講師、83年特
任助教授、86年短大
08年国際言語学部教
授、通訳技法を担当。

本学は4月1日付で、3月末に退職した大島新(76)、土岐孝(77)両氏に關西外国語大学名誉教授の称号を、久禮義一(67)、武田千恵子(65)両氏に關西外国語大学短期大学部名誉教授の称号を授与した。名誉教授は大学が6人、短大部が9人となった。
大島氏は1995年外国語学部教授に就任、英語学概論・英語文法論などを担当。土岐氏は82年短大部穂谷講師、83年助教授、86年教授、08年国際言語学部教授、通訳技法を担当。

4氏に名誉教授授与

学位記を手に喜びの王北京語言大理事長。左は谷本本学理事長、右は片山理事



名誉学位記授与式

「言語を学ぶことは 異文化理解の道」 王北京語言大理事長が謝辞

4月2日に行われた王路江・北京語言大理事長への名誉学位記授与式では、靳衛衛・孔子学院長(国際言語学部教授)が司会進行役を務め、谷本義高大学学長が、授与の辞の中で王理事長の功績を称えた。その後、谷本義高大学学長が名誉博士号の学位記を授与。続いて理事長と片山智行理事(同)が栄誉のフードを王理事長の肩から後に垂らした。
王理事長は「言語は文化の伝達手段であり、各国各民族の言語を学ぶこ



谷本理事長から辞令を受け取る新任教員

2010年度辞令交付式 新任教員ら約80人が出席

2010年度の職員辞令交付式が4月1日、中宮学舎マルチメディアホールで開かれ、関係者約80人が出席した。はじめに大島新、久禮義一、武田千恵

教授、コンプリヘンシブイギリス語を担当した。

日本外国特派員協会(FCCJ)主催のSvadesh DeRoy Scholarship)コンテストで、留学生別科のチャティール・E・ケロッグさんが第3位に入り、4月9日の表彰式で奨学金10万円が贈られた。このコンテストは、国際ジャーナリストを目指す大學生や留學生の支援を目的に設立され、エッセー、フォト、ビデオの3部門。14か国の學生から24件の作品が寄せられ、ケロッグさんの作品は、19件のエッセー部門でトップに評価された。
今回は、新旧メディアに対する日本の若者の見方がテーマ。ケロッグさん



薬物の恐ろしさアピール 啓発DVD上映 新入生学生生活ガイダンス

今春の新入生を対象にした学生生活ガイダンスが3月30日、中宮キャンパスの谷本記念講堂で開かれた。薬物乱用防止のDVDを上映して薬物使用の怖さなどを訴え、参加した約2600人は熱心に見入っていた。写真。
新入生が薬物犯罪に巻き込まれたり、ひったくりや自転車盗、交通事故などに遭わないよう注意してもらおうと開いている。今年で4回目。
最近多発している大学生や中、高校生の中から薬物使用事件について、約25分間、警察庁が制作した啓発DVD「Tria(罌)」を上映した。内容は身近に潜む薬物の「罌」にかかる若者の姿を描



「The Death of the Newspaper? Old Media vs. New and what Japanese Youth think of news.」のタイトルでエッセーを書いた。
今年に入って、本学の学生約20人ほどのような手段で情報を得ているか取材。その成果を約1100語にまとめた。
ケロッグさんは米国ノースキャロライナ州のギルフォード大学で英文法や英米文学を専攻。昨年秋季学期から別科で日本の社会や宗教などを学んでいる。春学期修了の5月に帰国の予定。将来はフリーランスのメディアジャーナリストに進む道も考えているという。
このコンテストは、日本外国特派員協会会長を務めたジャーナリスト、スワドシュ・デロイ氏に敬意を表して創設された。今回、本学からは、ケロッグさんのほか、別科留學生4人と本学の女子學生1人の計6人が応募。ケロッグさん以外の5人も表彰された。

大麻事件で学生部長が談話

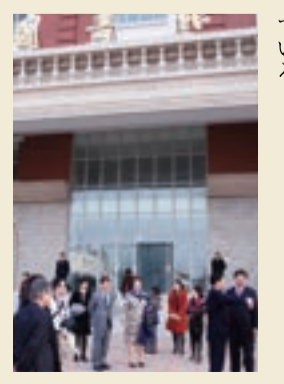
本学学生が大麻所持の疑いで逮捕されたことに関連し、4月7日、丹下和彦学生部長名で次のような談話を本学ホームページ上で発表しました。
「この度、警察署からの連絡で、本学の學生が大麻所持の疑いで逮捕されたことが明らかになりました。大変遺憾なことです。本人と面談もできていない状況であり、詳細についてはまだ確認できておりません。今後、事実を確認の上で、厳正に対処します。
本学では、かねてから薬物依存者の社会復帰をサポートしている市民団体から講師を招いて薬物依存の恐ろしさを伝える講演会を開いたり、また誘惑に負けない方法をオリエンテーション等で教えるなど、全学で対策を講じてきました。今後もこのようなことが起きないように、いっそう指導を徹底していく所存です」

別科留學生ケロッグさん入賞 エッセー部門ではトップ

「The Death of the Newspaper? Old Media vs. New and what Japanese Youth think of news.」のタイトルでエッセーを書いた。
今年に入って、本学の学生約20人ほどのような手段で情報を得ているか取材。その成果を約1100語にまとめた。
ケロッグさんは米国ノースキャロライナ州のギルフォード大学で英文法や英米文学を専攻。昨年秋季学期から別科で日本の社会や宗教などを学んでいる。春学期修了の5月に帰国の予定。将来はフリーランスのメディアジャーナリストに進む道も考えているという。
このコンテストは、日本外国特派員協会会長を務めたジャーナリスト、スワドシュ・デロイ氏に敬意を表して創設された。今回、本学からは、ケロッグさんのほか、別科留學生4人と本学の女子學生1人の計6人が応募。ケロッグさん以外の5人も表彰された。

PICK UP!!

天津外大を視察
本学の「教育G.P.天津外国語学院教育視察団」(団長・谷本榮子理事長、9人)が3月23日、中国・天津市を訪れ、市中心部の同学院キャンパスと、郊外の大港区にある浜海キャンパスを視察した。写真。本学が中心になって推進中の文科省選定の「ASEAN+3」大学コンソーシアム「構想など」について協議し、双方の連携を一層強化して交流の活発化を図ることで一致した。本学の教育G.P.視察団は2月にも韓国の2大学を訪問している。



新任教員 (4月1日付)

<p>国際言語学部 非常勤講師</p>  <p>かつ 葛</p>	<p>外国語学部 非常勤講師</p>  <p>みなみ 南</p>
<p>国際言語学部 非常勤講師</p>  <p>よしとし 佳利</p>	<p>外国語学部 非常勤講師</p>  <p>みなみ 南</p>

中国語基礎 I 国際関係論